

# 検証・浦和電車区事件の真実 要約版1号 (No. 1~5)

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

## 他労組との交遊が大事件に、吊し上げ始まる！

事件被害者のY氏は、1992年4月にJR東日本入社すると同時にJR東労組に加入した。駅、車掌区を経験し、2000年2月に転勤した浦和電車区は、組織の「規律」が厳しい職場だった。当時、JR東労組東京地方本部青年部は、国労組合員に加入を呼び掛けるハガキを送る運動を行っていたが、Y氏は先輩に失礼と思い、指示に従わなかった。

### 売り言葉に買い言葉で「脱退しますよ」と発言

2000年12月21日、Y氏は、しつこい追及に対し、2000年11月に東京車掌区時代のグリーンユニオン (JR連合) 組合員も交えてキャンプに行ったことを喋ってしまった。また、26日にはA分会青年部長に「こんなもん書くなら、脱退届を書いてやる」とはずみで言った。これに反応したJR東労組は、28日、職場の講習室でY氏の事情聴取を行った。斉藤被告・上原分会長 (被告)ら12~3名から厳しく詰問され、キャンプ参加者の名前を明かせと迫られる中、Y氏は、はずみで「迷惑のようだったら脱退しますよ」と言ってしまった。しかし帰宅後、「脱退したら差別される」と思い、分会長に発言撤回を申し出るなどしたが納得してもらえなかった。29日夜に分会長から電話があり、「どうしてもメンバーを明かさざるを得ないぞ。明日集会に出てこい」と指示された。悩んだY氏は、同日、メンバーに電話で相談した。前職場の東京車掌区の先輩でグリーンユニオン所属のG氏の発案により、「グリーンユニオンのH氏をJR東労組に戻すためキャンプに行った」との「作り話」で対処することにした。

### 集団的吊し上げの始まり

12月30日、講習室の「拡大闘争委員会」なる集会で、Y氏は30人ほどの組合員から激しく責められ、仲間の名前を明かした。4時間にわたり、繰り返し罵声を浴び、謝罪を要求され、仲間と縁を切ることなどを約束させられた。解放されたい一心で理不尽な約束を受け入れた。

JR東労組浦和電車区分会は「闘争委員会」を設置し、Y氏に対し厳しく対処する方針を決定していた。12月29日夕刻、分会執行委員会を開催、Y氏の行動を「組織破壊」と規定し、分会執行委員会を「闘争委員会」に切り替えることが決定された。

### シリーズ第1号~第5号の経過

|         |   |
|---------|---|
| 1992年4月 | Y氏がJR東日本に入社しJR東労組に加入、川口駅に配属【No. 1参照】  |
| 1993年2月 | Y氏が東京車掌区に転勤【No. 1参照】  |
| 2000年2月 | Y氏が浦和電車区に転勤【No. 1参照】  |
| 11月     | Y氏がグリーンユニオン (JR連合) 組合員らとキャンプに行く【No. 1参照】  |
| 12月初旬   | Y氏がJR東労組の国労へのハガキ活動を拒否【No. 1参照】  |
| 12月21日  | Y氏が斉藤被告にキャンプの話をつかり漏らす【No. 1参照】  |
| 12月26日  | Y氏が浦和電車区分会A青年部長に「脱退届を書いてやる」と発言【No. 2参照】   |
| 12月28日  | 職場講習室でハガキ活動をめぐり事情聴取、Y氏ははずみで「脱退しますよ」と発言【No. 3参照】   |
| 12月29日  | Y氏が上原分会長 (被告) に発言撤回を申し出たが拒否される【No. 3参照】<br>Y氏がキャンプ参加者に対処方法を相談、G氏の発案で「作り話」で事態を乗り切ること【No. 4参照】<br>JR東労組浦和電車区分会執行委員会でY氏の追及方針を決定【No. 5参照】 |
| 12月30日  | 職場講習室の分会「拡大闘争委員会」で4時間にわたりY氏を吊し上げ【No. 4参照】   |